



朝倉 陽保

丸の内キャピタル
取締役社長

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク #239

そんたく

忖度と多様化社会



大森 美和

バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ
東京支店長

耳慣れない言葉が何かのきっかけで流行語になったりするものだとなつくづく感じしました。それだけ忖度という言葉で表現される状況が頻繁にあるということでしょう。契機となった事件はさておき、忖度がわが国の美徳の一つであるという意見も。思いやりの心は賛美に値しますが、相手の意思を確認せずに決めてかかるのは、同じ価値観を共有しているという幻想がなせる業でしょうか。

さて大仕事を終えたチームの会話。「さあ今日はがっつり飲みに行こうぜ」「誰誘う?」「Aには声を掛けるのやめようぜ。飲めないのに誘ったら気の毒だろ」「そうだね」

もしくはプロジェクトのメンバー選考。「重要なプロジェクトだからスキルの高い人を推薦してくれませんか」「Bさんの知識レベルは相当高いですよ」「出産したばかりの人には荷が重いんじゃないですか? 残業とか多くなったら気の毒ですよ」

ありふれた情景のようですが、行動規範研修のケーススタディーになりそうです。

Aさんは体質や宗教上の理由でお酒が飲めなくても皆と打ち上げの雰囲気共有したいかもしれません。またワーキングマザーBさんは無理をしても名誉あるプロジェクトには参加してステップアップを狙っているかもしれません。良からうと思ってしたことでも独断で他人を傷付けたり、チャンスを奪ったりしてしまわないよう注意しないといけませんね。

差別やハラスメントに対する意識が向上した今、Unconscious Bias（無意識の先入観）が個人の尊重や多様性を阻む大きな要因として注目されています。

とはいえUnconscious Biasはわれわれの誰もが持っているDNAのようなもの。不適切な行動につながらないように自らに問い掛けるのはもちろんですが、お互いのUnconscious Biasを気軽に指摘できるような自由な雰囲気があればもっと多様性を享受できる気がします。

忖度がまかり通る現代は、まだまだ一億総活躍し、移民と共生する社会へ転換するには課題が多いということでしょうか。

▶▶ 次回リレートーク

牧浦 真司

ヤマトホールディングス
常務執行役員